第３学年１組　保健体育科学習指導案

　　　 学習指導者　教諭　加藤　弘晃

Ｔ２　講師　末包　耕太郎

１　日時　令和６年１０月１１日（金）　　　体育館

２　単元 バレーボール

３　学習指導計画（全１０時間）

* オリエンテーション・・・・・・・・・・・・・１時間
* 基本的なボール操作・・・・・・・・・・・・・３時間
* 課題学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・３時間
* 習得した技術を生かしたゲーム形式・・・・・・３時間（本時２／３）

４　単元について

1. 本単元は、学習指導要領「E球技」の「ネット型」に位置づけられており、個人やチームの能力に応じて作戦を立て、集団対集団で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

　　　 したがって、生徒たちは練習やゲームを通して自己やチーム特有の強みや課題を把握し、解決を図りながら作戦を立てる必要があるため、課題を発見する力、その課題の合理的な解決に向けて取り組み方を工夫する力、そして自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる力を養う活動を仕組むことができる。また、そのような活動の中で、自らの責任を果たしたり、互いに助け合ったりするなど、社会的に必要な態度も養うことができる。

　　　 これらの特性から、主体的・対話的で深い学びの実践を通して、集団での課題解決能力の育成（共に学ぶ）を図るために本単元を取り扱うことは意義深いと考える。

1. 本学級は、男子１８名　女子１５名の計３３名である。生徒の実態は以下の通りである。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 当てはまる | 少し当てはまる | あまり当てはまらない | 当てはまらない |
| バレーボールが好きだ | １７名 | ８名 | ３名 | ２名 |
| ８３（％） | | １７（％） | |
| 友だちとアイデアを共有することが好きだ | ５名 | ５名 | １８名 | ２名 |
| ３３（％） | | ６７（％） | |

実技分野については、積極的に活動しようとする意欲が全体的に十分に見られる。どの種目に対しても前向きに取り組み、事前アンケートでは、バレーボールへの関心の高さがうかがえる。

しかし、友だちとアイデアを共有することに対して苦手意識を持つ生徒が約７割であることが上記のアンケートから読み取れる。日々、男女共習で学習を進めており男女の関係は非常に良好である。バレーボールの授業を通してそれぞれの意見を交換したり、アイデアをうまく融合することで、意識の変化が生まれ、苦手意識を解消できるのではないかと考える。

　(3)　上記のことをふまえ、指導にあたっては以下の点に留意する。

　　・　伝える力を身に付けさせるために、基本的にチームで活動し話し合う時間を作る。

　　・　タブレット端末や分析シートを有効に活用し、「チームの特徴を活かした戦術」を分析

させ、課題解決力を身に付けさせる。

５　本時の学習指導

　(1)　目標

チームで考えた有効な戦術をゲームの中で使うことができる。

(2)　主体的対話的で深い学びのための工夫

　　　・　チーム内の話を簡単にワークシートにまとめ、自分や他者の考えから改善点を言葉にして伝えさせる。

　　　・　個人的な課題やチームとしての課題を発見できるように、タブレット端末による撮影をする。

　(3)　学習指導過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習内容及び学習活動 | 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 |
| １　準備運動をする。  ２　前時の復習をする。  ３　学習課題を確認する。  ４　チームの課題について話し合い、課題を共有する。  　発）今のチームに足りない攻撃パターンは？  ５　チームの課題をもとに工夫をして試合をする。  (1)　チームの課題を本時の課題と結びつけ工夫する。  ６　本時のまとめ、振り返りをする。 | ・　基本の攻撃は三段攻撃だったな。  ・　二段攻撃やバックアタックもあったな。  〈学習課題〉試合を優位に進めるために必要な戦術は何か。  ・　攻撃パターンは２種類くらいできるといいな。  ・　三段攻撃と二段攻撃を使っていこう。  ・　相手がいない場所に打つようにしよう。  ・　相手の場所を見てスパイクを打とう。   * 攻撃の種類を増やしていこう。   ・　良い攻撃を成立させるためには、レシーブやトスも重要だね。 | ・　活動場所の安全確認をする。  ・　攻撃パターンの確認をする。  ・　本時までの授業に出てきたキーワードを整理するためにワークシートを使用し生徒に問いかける。  ・　自己の課題を発見しにくい生徒に対して、映像を参考に助言する。  ・　チームでの話し合いの中で改善点以外に、チームの良いところを共有するように促す。  ・　課題に合わせた改善方法を例として提示しておく。  ・　トスに関してはキャッチトスも可能とし、通常のトスが苦手な生徒も積極的に参加できるような工夫をする。  ・　様々な状況で適切な攻撃パターンを判断できるようになったかをチームで映像を見て確かめる。 |

(4)　評価

・　グループ活動に積極的に参加し、発言等が十分にできていたか。（発言内容）

・　チームに合った攻撃パターンを考え、ゲームの中で使い分けることができたか。

（実践の様子、戦術）